

## [成果情報名] 露地栽培「せとか」の果面障害発生軽減のための着果方法

[要約] 露地栽培「せとか」では、樹冠の上部1／3に着果した果実を摘果し、中・下部に着果させることにより傷や褪色などの果面障害の発生が軽減されるとともに、袋かけや収穫に要する時間を短縮できる。

[キーワード] せとか、着果、果面傷害

[担当] 農林技術開発センター・果樹研究部門・カンキツ研究室

[連絡先] 0957-55-8740

[区分] 果樹

[分類] 指導

---

### [背景・ねらい]

「せとか」は外観が優れ、品質も良好なため、市場での評価も高く、高値で取引されている。しかしながら、果面が滑らかで風傷が多く、収穫前の褪色が発生しやすいことなどから商品性の低下を招いている。

### [成果の内容・特徴]

1. 樹の下部になるほど風当たりが弱いので、樹冠中・下部に着果させることにより、傷及び褪色の発生度は約2/3に軽減できる（図1、表1）。
2. 樹冠の中・下部に着果させることにより、全面着果させる場合と比べ、袋かけに要する時間を約20%短縮できる（表2）。
3. 樹冠中・下部に着果した果実の収穫に要する時間は樹冠上部と比べ、約30%短縮できる（表2）。
4. 着果方法を変えても収量、果実重はほぼ同じである（表2）。

### [成果の活用面・留意点]

1. 傷及び褪色の発生程度は園地条件や気象条件により変動する。
2. 露地栽培では樹冠中・下部でも障害果の発生が多いので、外周部を中心に袋かけを実施した方がよい。

[具体的データ]

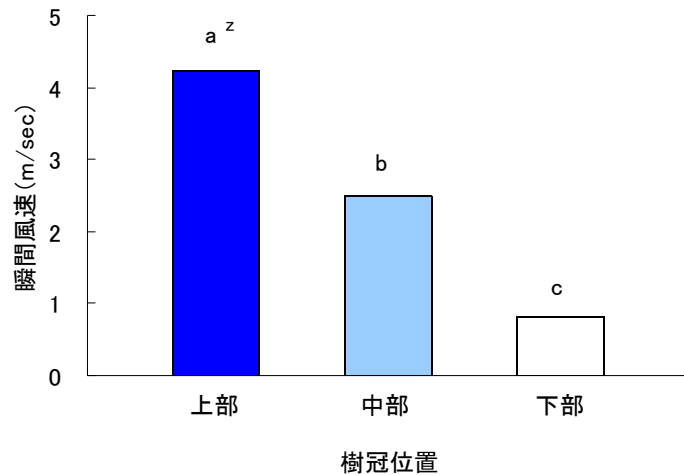


図1 樹冠位置と台風<sup>y</sup>接近時の風速

<sup>z</sup> 異なる文字間には Tukey の多重検定により5%レベルで有意差あり

<sup>y</sup> 2007年 7月14日、台風6号接近時に計測

表1 露地栽培「せとか」の着果方法と果面傷害の発生

着果方法	傷発生度 <sup>z</sup>	褪色発生度 <sup>y</sup>
樹冠中下部着果	52.2	38.5
全面着果		
上部	79.7	65.6
中下部	56.1	41.9

<sup>z</sup> 傷発生度  $\frac{\text{無} \times 0 + \text{微} \times 1 + \text{軽} \times 2 + \text{中} \times 3 + \text{甚} \times 4}{\text{全体の個数} \times 4} \times 100$

<sup>y</sup> 褪色発生度  $\frac{\text{無} \times 0 + \text{軽} \times 1 + \text{中} \times 2 + \text{甚} \times 3}{\text{全体の個数} \times 3} \times 100$

表2 露地栽培「せとか」の着果方法と収量、果実重及び袋かけ、収穫に要する時間

着果方法	収量 (kg/樹)	果実重 (g)	袋かけ (100袋あたり)	収 穫	
				樹冠上部 (100果あたり)	樹冠中下部 (100果あたり)
樹冠中下部着果	48.2	147.9	13分49秒		8分11秒
全 面 着 果	51.3	143.4	17分 5秒	11分26秒	7分28秒

[その他]

研究課題名：機能性に富む中晩生カンキツの高品質果安定生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2004～2008年度

研究担当者：林田誠剛